

土砂災害の体験談から考えさせられた事

奈良県 大和郡山市立郡山西中学校

一年 藤森 ふじもり 美花 みか

ピピピピッピピピッ。気象情報のテロップが、何度も流れた。「いろんな地域が、雨で大変なのだな」と思った。しばらくすると、その思いは、なんともいえない不安へと変わっていった。

ザーザーと激しく降る雨の音。テレビの画面の周りには、土砂災害情報や避難指示などと出ていた。異様だと思った。お母さんの携帯には、市から自主避難所の開設の案内メールが届いた。避難所が開設されるくらい大変な状況へとなりつつあるのだなと理解した。

ニュースでは、川がはんらんし、住居がある方へと水が流れていく様子が写し出されていた。そして、その映像の上の方に、土砂災害が起こったという内容のテロップが流れた。胸がドキドキした。怖いという思いでいっぱいになった。

2
寝る時間になっても、雨は、まだ激しく降り続けていた。怖いなという思いを抱えながらも、ようやくとうとうと眠り始めた時、ピロロロンピロロロン、お母さんの携帯が激しく鳴った。家族全員、とび起きた。川がはんらんしそうだという内容の緊急メールだった。それから、何度か緊急メールが届いた。私達の家からは、遠く離れている川であつたけれども、近くに住んでおられる方達は、どんなに恐しい思いをされながら夜を過ごさ

2
れたことか。私でさえ、あまりよく眠れなかつたのだから、本当に大変だつたと思う。

朝になって、テレビのニュースや新聞で、言葉でどう表してよいのかわからないくらい大変な状況になった地域があつたことを知つた。土砂災害が起こつたのだった。あまりにも悲さんな映像に、言葉が出なかつた。

私と同じように、夜、家で寝ていて……。想像すると頭が真っ白になつた。笑顔で夕食を食べて、何もなければいいねと思ひながら布

団に入って、眠りについて……。普通の生活を
していたのに、一瞬で命を奪う土砂災害は、
とても怖いと思った。

それから毎日、土砂災害が起こった地域の
ニュースが流れた。死者という文字の横に
書かれた数字が、日が過ぎていくごとに増え
ていった。胸が苦しくてたまらない。なぜ、
こんなにもたくさんさんの尊い命が奪われてしま
ったのだろうか。助かる方法が、なにかなかっ
たのだろうか。

いろいろ調べてみると、「私の家は大丈夫
だろう」と思って、避難しなかったことも災
害にあった一つの原因と載っていた。実際に
そう思っていて避難せず、土砂が流れこんで
きたが運良く助かったという話も聞いた。

体験談を聞いて、自分の行動を振り返って
みた。怖いなと思いなながらも、何の備えもせ
ず寝ようとしていたな……。きつところは夫
夫という思いがあるからだなと体験談を話
されてる方と同じだと思った。

4

でも、それではいけないと考えさせられた。大雨による土砂災害や洪水などだけでなく、火災や地震、全ての災害にいえることだと思う。大丈夫だろうという考えは、捨て去らなければいけないと思う。天災は、人間の力でどうにかできるものではないのだから、自分の命を守るために、素早く避難することを心がけるようにしなければならぬと思う。避難して何も起こらなければ、そのことを心から喜ぶことが大切であって、起こらなかつたことを、どうせ来たって何もなかつたのだから、来るだけ無駄だった」という考えを持たないようにしないといけないと思う。

4

避難しようとして準備している時に、土砂災害に巻き込まれた人達もいるだろうけれど、尊い命がたくさん奪われたこの土砂災害から、私達は多くのことを学び、また、天災による被害が起こりそうな時、どうすれば命を守れるかを学んだことをいかして行動するようになれればいいなと願う。被害にあわれた方達

5

は、大雨が降り続くと恐怖がよみ返って、不安な思いに包まれることだろう。一日も早くその思いがいやされ、そのような思いがくることのないよう異常な雨などが降らない、正常な気象になることを願う。

5

温暖化と言われているが、それを防ぐためにも一人一人が、気象に関心を持ち、住みよい地球となるように心がけることができればなにかがよいように変わっていくのではないかと思う。